

洛西 竹の径



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

洛西地区の発掘調査

桂から榎原、洛西ニュータウン周辺は竹林で有名ですが、古代には秦氏の活躍したところでもあります。また、京都市内でも前方後円墳を含め古墳の多いところ。遺跡では古くは縄文時代から、古墳を始め、古代寺院跡、中世の城跡や館跡等も点在します。京都市内の中でも早くから開けていた地域といえるでしょう。

発掘調査では、縄文時代晩期の集落が見つかった上里遺跡、前方後円墳の天皇の杜古墳や寺戸大塚古墳、古代寺院の一つである榎原廃寺、中世の革嶋館跡等の調査が行われ、それぞれに成果を収めています。また、大規模な造成工事に伴い大枝山古墳群の発掘調査もなされています。



1 大枝山古墳群

大枝山古墳群は、西山の丘陵部に位置し、25基の円墳からなる古墳時代後期の群集墳です。この古墳群の存在は明治時代から知られ、分布調査や石室の実測が行われており、京都市内でも著名なものでした。大規模造成のため、8基の円墳を発掘調査しました。古墳には周濠が巡る墳丘径約13mのものと約20mの大小に大別できます。主体部は横穴式石室で両袖と片袖の両方があります。調査対象外の14基の古墳は公園として整備されています。



2 革嶋館跡

阪急桂駅の西南には川島という地名があります。川島の中央を東西に走る道路がかつての山陰街道でした。この川島は中世から続く川島(革嶋)集落の名残で、集落の南側に戦国時代から江戸時代まで、革嶋館があったことが「革嶋家文書」の絵図から知られていました。その絵図には、土塁と堀で囲まれた館が描かれています。発掘調査では、この館に関する堀跡を2箇所確認しています。堀の幅は約5m、深さ約2mの大きなものでした。みつかった堀は絵図等から、館の東南部と西南部のものとわかりました。



3 史跡 天皇の杜古墳

西京区御陵塚ノ越町に所在する天皇の杜古墳は、大正11年に墳丘が国の史跡に指定され、その後周辺の田圃も買い上げられて公有地化がなされました。京都市を代表する前方後円墳で、京都市が保存活用するために史跡公園として整備しました。その際の発掘調査で、葺石や埴輪列、テラスの様子がわかりました。また、古墳の外側の周濠がないことも判明しました。これらから、2段築成の前方後円墳で全長が約83m、後円部径50.5m、前方部幅33.5mであること、平地で周濠がないこと、埴輪の形式等から築造年代が古墳時代前期末葉頃と考えられます。



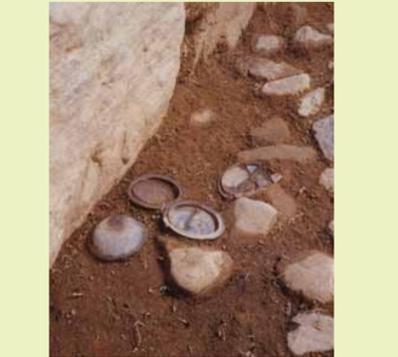
4 史跡榎原廃寺跡

山陰街道と物集女街道が交わる一帯が榎原です。この交差点から少し南に下がったところに榎原廃寺跡史跡公園があります。ここは、昭和42年に造成工事が行われる前に京都府と奈良国立文化財研究所により発掘調査がなされ、八角形の瓦積基壇と基壇中央の地下約2mから一辺2mほどの花崗岩の心礎が見つかり、この基壇が塔のものであることがわかりました。同時に東西の回廊や中門と思われる遺構も発見されています。出土する瓦や土器から、この寺が白鳳時代のものであることがわかりました。八角形の塔で現存するものは長野県の安楽寺にある三重塔だけで、これは鎌倉時代末期のものとされています。また、京都市岡崎の法勝寺跡で平安時代後期の八角九重塔基壇が見つかったのですが、白鳳期のものではほかに類例のない貴重なものです。



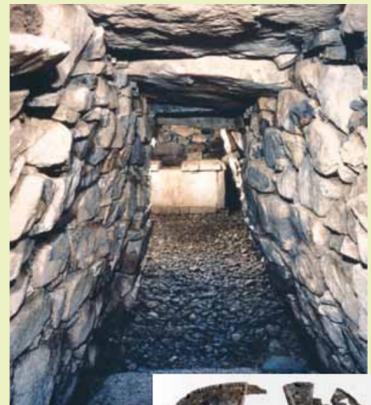
5 福西古墳群

福西古墳群は向日丘陵の北西部に位置し、小畑川に西面する標高60～70mの低位段丘上に立地します。現在までに32基の円墳が確認されています。発掘調査は昭和27年に京都府教育委員会が行ったのを初めとして、洛西ニュータウン建設時に14基の調査が実施されています。その後、宅地造成等で既知のものや新たに発見されたものが調査されています。出土土器や石室等から、この古墳群は6世紀後半から7世紀前半に構築されたものとみられていましたが、小石室等の発見で7世紀中頃まで築造されていたことがわかりました。



6 物集女車塚古墳

6世紀中葉の全長約45mの前方後円墳。横穴式の石室で、天井が高いのが特徴です。石室の構築石材の中には兵庫県高砂市に産する竜山石製の長持形石棺の部材が転用されていました。竜山石製の長持形石棺は古墳時代中期の畿内における有力者の石棺に用いられたものであることから、物集女地域の前代の有力者の墓を壊して、車塚が造られた可能性があります。副葬品は、金銅製の冠や馬具・振り環頭大刀・鉾・玉類等が見つかっています。(向日市)

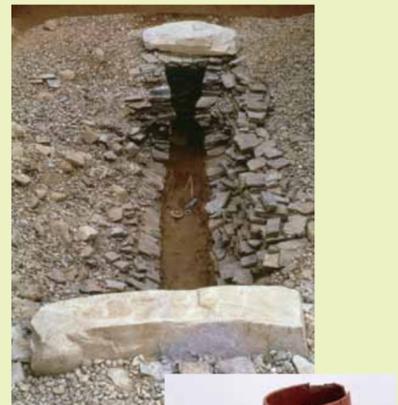


写真提供：(上・下)向日市教育委員会



7 寺戸大塚古墳

向日丘陵に点在する古墳時代前期古墳の一つ。4世紀前葉に造られた墳丘長約95mの前方後円墳です。埋葬施設は後円部と前方部に竪穴式石槨が一つずつ設けられています。後円部の石槨は付近で産するチャートの板石で造られ、舶載三角縁唐草文帯四神四獣鏡を始め太刀や斧・鎌等が見つかっています。前方部の石槨は大阪府柏原市産出の安山岩の板石で造られ、仿製三角縁唐草文帯三神三獣鏡を始め、直刀・短刀や管玉・碧玉製紡錘車等が見つかっています。



写真提供：(上・下)京都大学(下)向日市教育委員会



8 石見城跡

西京区大原野石見町内の竹藪の中に、土塁跡と堀跡が残っています。堀は折れ曲がった形状がよく残っており、両脇の土塁もよくわかります。石見城の詳細はまったくわかりません。戦国時代、地元の小野氏が居城していたのではないかと考えられています。発掘調査はなされていませんが、そのすぐ西側では調査されています。その調査では、中世前半～戦国時代までの3時期の遺構が見つかっています。2期目の14世紀後半から15世紀初頭の遺構群では建物が多くみつき、その方位が現存する石見城の堀や土塁の方位とよく似ているのが注目されます。



9 上里遺跡

上里遺跡は向日丘陵の西側を南流して桂川に注ぐ小畑川の右岸に位置します。縄文時代から中世にかけての複合遺跡で長岡京の北西部にも属します。発掘調査では、長岡京期の大型の建物群や道路遺構を多数検出し、特に一条大路南側溝は総延長で約720mを検出し、このあたりまで長岡京がしっかりと造営されたことが明らかとなりました。次に弥生時代前期の竪穴住居・土坑・土器墓・焼土痕等を発見しました。焼土痕は屋外炉とも考えられます。上里遺跡で最も注目された縄文時代晩期は、流路状遺構・竪穴住居・土器墓・土坑等多数の遺構と、多量の土器・石器が見つかっています。また、流路状遺構からは炭化した豆類やどんぐり、粟、クルミ等と共に米もみつかっています。しかし、炭素年代測定では米以外のものは約3000年前の数値が出ましたが、米に関しては約2500年前という数値となりました。とはいえ、京都市内では一番古い米粒の発見であることには間違いありません。



洛西地区の発掘調査地分布図

資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

